

# 日中対訳小説における受身文の対応性について

——漢語サ変動詞の受身文を対象として——

陳

曦

## 1 はじめに

日本語の受身文と中国語の受身文には違いが見られる。中国語の受身文は基本的に人間が主語である場合に限られ、主語が何らかの動作によって、被害、迷惑を被ることを表す。一方、日本語の受身文は人間以外のものが主語になることがあり、被害、迷惑の意味を表すとは限らない。

このことについて、以下の例文で確認する（以下、例文のaは日本語文で、bはその中国語訳文である。日本語文と中国語訳文では主語に一重下線を、動詞に波線を、中国語の受動標識に二重下線を付す）。

- (1) a. 太郎は花子に殴られた。  
b. 太郎被花子打了。
- (2) a. 会議は大阪で開催された。  
b. 会议在大阪召开。

日本語の受身文は、(1a)に示したとおり、動詞「殴る」の未然形に受身の助動詞「れる」を接続させることで作られる。動作主体「花子」は助詞「に」で示され、動作対象「太郎」は主語の位置に置かれる。次に、中国語の受身文を見ていく。中国語は形態変化がないので、受身を表すために、受動標識を用いる。(1b)では「被」字が受動標識である。受動標識の前にある「太郎」が動作対象で、受動標識の後にある「花子」が動作主体である。「殴る」に対応する中国語動詞は「打」である。(1b)で主語「太郎」は「殴る」という動作の影響によって、被害を受けていることを表している。

次に、(2a)を見ると、日本語受身文の主語は「会議」で人間ではない。人間が主語でない場合でも、日本語では受身文で表すことができる。しかし、「開催される」が(2b)で「召开(開催する)」と訳されていることからわかるように、人間が主語でない場合、中国語訳文では受身文にならずに、能動文になる。

日本語の受身文と中国語の受身文には、このような違いがあるため、

中国人日本語学習者にとって、日本語受身文は習得が難しい文法項目の一つに挙げられる。

日本語の受身文と中国語の受身文については、これまで多くの研究がなされているが、対象となっているのは和語動詞が多く、漢語サ変動詞を扱ったものはほとんどない。

漢語の中には、日本語と中国語とで同じ漢字で表記される日中同形語がある。日中同形語は、漢字表記が同じであるが、意味用法などの異なることが多い。このことは、漢語サ変動詞にも当てはまる。例えば、漢語サ変動詞「含意(する)」は、中国語でも「含意」と表記される。日本語の「含意(する)」は他動詞であるが、中国語の「含意」は名詞である。そのために、日本語では受身文を作ることができるが、中国語では受身文を作ることができない。このような語があるため、漢語サ変動詞の受身文は中国人日本語学習者にとって、和語動詞の受身文よりも一層難しくなる。

以上述べたように、日本語の漢語サ変動詞の受身文は、中国人日本語学習者にとって非常に難しい文法項目であるにもかかわらず、研究がほとんどなされていない。このような研究の状況を考えると、まず日本語の漢語サ変動詞の受身文と中国語訳文とが、どのように対応するか、実態を把握する必要がある。そこで、本稿では、日本語の小説とその中国語訳本を資料として、漢語サ変動詞の受身文とその中国語訳文との対応関係を調査する。

## 2 先行研究

受身文に関する日中対照研究は大きく二つの面から行われている。一つは、日本語の受身文が中国語でも受身文として成立するためには、どのような文法条件が必要であるかについての研究で、大河内(一九八三)、楊(一九八九)、中島(二〇〇七)などが挙げられる。もう一つは、日本語の受身文は中国語でどのように訳されるのかについての研究で、飯嶋(二〇〇七)、何(二〇一二)、梅(二〇一六)などがある。後者の研究のうち、何(二〇一二)は漢語サ変動詞の受身文に着目したものである。以下、何(二〇一二)の概要を紹介し、問題点について指摘する。

何(二〇一二)は、『日中辞典』(講談社)のCD-ROMを資料として、日中同形語の漢語サ変動詞の受身文五〇九例を収集している。この五〇九例を対象に、日中同形語の漢語サ変動詞の受身文とその中国語訳文との対応関係と、中国語訳文における日中同形語の使用状況の二つについて考察している。

まず、日中同形語の漢語サ変動詞の受身文とその中国語訳文との対応関係については、次の表1のような結果を報告している。

何(二〇一二)は中国語訳文を大きく「能動文」「受身文」「無対応」に分けている。さらに受身文を「被」構文、「被」以外の受動マーカー構文「非情物+自動詞構文」に、能動文を「動作主不明」「動作主あり」に分類している。その上で、表1の「非情物+自動詞構文」について、中国語では受身文としてあまり意識されていないと述べ(何

二〇一二・一三二)、本当に受身文と言えるのは「被構文」と「被」以外の受動マーカー構文」であるとしている。

表1で漢語サ変動詞の受身文と対応する中国語能動文は、動作主あり能動文と動作主不明能動文で、合わせて一〇九例(21・4%)である。漢語サ変動詞の受身文と対応する中国語受身文は「被」構文と「被」以外の受動マーカー構文となり、合わせて二五二例(49・5%)で訳文数のほぼ半分になる。

訳文における日中同形語の使用状況については、収集した受身文五〇九例の中に、日中同形語は異なり語数で三一〇語用いられており、そのうち一三九語(44・8%)が中国語訳文にも使われているとしている。日中同形語が使用された訳文の文数は二二六例(44・4%)である。中国語訳文における日中同形語の使用は異なり語数、中国語訳文の文数のいずれにおいても四割程度にとどまる。

何(二〇一二)は、その要因として、日本語と中国語の語義のずれ、品詞性の不一致、言語環境の変化などを指摘している。さらに日中同形語は中国語で受身文を作ることがで

表1：日中同形語の漢語サ変動詞の受身文と中国語訳文との対応関係

訳文の分類	能動文		受身文			無対応	合計
	動作主あり	動作主不明	“被”構文	意味上の受身文			
				“被”以外の受動マーカー構文	非情物+自動詞構文		
訳文数	52	57	176	76	74	74	509
比率	10.2%	11.2%	34.6%	14.9%	14.5%	14.5%	100%

(何 2012 : 132 に基づく)

きるかについて、『北京大学コーパス』<sup>1)</sup>を用いて確認している。

以上見てきたとおり、何(二〇一二)は日中同形語の漢語サ変動詞の受身文について種々の面から調査を行っている。しかし、以下に挙げるような問題を指摘することができる。

まず、調査資料として辞書を用いる点である。辞書の用例は実例ではないため、日中同形語の漢語サ変動詞の受身文の使用実態を正確に反映していない面もあると考えられる。小説など作例ではない言語資料を資料とした調査が必要である。次に、調査対象を日中同形語の漢語サ変動詞に限っている点である。研究の現状として、そもそも日本語の漢語サ変動詞の受身文と中国語との対応関係が明らかにされていないということがある。このような状況を踏まえると、日中同形語に限らず、広く漢語サ変動詞の受身文を調査する必要がある。最後に、能動文の分類方法に適切でない点が見られるということである。具体的には(3)の分析で、主語と動作主とを混同している点である。

(3) a. この文集には卒業生の思いが凝縮されている。

b. 这本文集凝聚了全体毕业生的情怀。

何(二〇一二・一三六)では、(3b)を「受身文で空間を表す場所が動作主として抽象的な名詞に訳された能動文」と解釈している。しかし、(3b)の「这本文集(この文集)」は主語であるが、「凝聚(凝縮する)」の動作主として解釈することはできない。

### 3 調査資料と方法

本稿の資料は、村上春樹『1Q84』とその中国語訳本（施小偉訳）である。何（二〇一二）では辞書を資料としていたが、本稿は実例から用例を収集する。

本稿は漢語サ変動詞の日本語受身文が、中国語にどのように訳されているかについて考察する。そのために、中国語訳文を「能動文」「受身文」「その他」に分類する。能動文は主語あり能動文と主語なし能動文に分ける。「受身文」の分類は高橋（二〇一七）により、表2のように分類する。

次に、表2により中国語受身文を説明していく。高橋（二〇一七）は中国語受身文を「被字句」「意味上の受身文」「語彙的受身文」の三類に大別した。「被字句」とは受動標識「被」を用いた受身文である。動作対象が主語「我（私）」で、動作主体が「他（彼）」で、動作が「打（打つ）」である。「意味上の受身文」とは受動標識がない受身文である。動作対象「衣服（服）」が「洗（洗う）」という動作の影響によってきれいになった（干浄了）という意味を表している。「語彙的受身文」とは受動

表2：中国語受身文の種類

分類	受動標識	例文
被字句	被	我 被 他 打 了。 私 受動 彼 打つ 完了
意味上の受身文	なし	衣服 洗 干浄了 服 洗う きれいになった
語彙的受身文	受到など	我 受 到 了 老 師 的 表 扬 私 受動 先生 の ほめ

標識「受到」などを用いる受身文である。動作対象が主語「我（私）」で、動作主体が「老師（先生）」で、受動標識に「受到」を用いている。他の受動標識として「遭到」「挨」などが挙げられる。

以下、高橋（二〇一七）の分類に基づいて、日本語小説『1Q84』とその中国語訳本を資料として、日本語漢語サ変動詞の受身文とその中国語訳文との対応関係を調査していく。

### 4 調査結果

#### 4・1 何（二〇一二）との比較

日本語版『1Q84』には漢語サ変動詞の受身文が四一四例用いられている。そのうち三九四例（95・2%）が直接受身文である。そこで、以下では漢語サ変動詞の直接受身文を対象に考察していく。

まず、日本語受身文が中国語訳文で能動文として訳されているか、受身文として訳されているかという対応関係について見ていく。調査結果を表3に示した。

表3では漢語サ変動詞の直接受身文と対応する中国語訳文を大きく「能動文」「受身文」「そ

表3：漢語サ変動詞の直接受身文とその中国語訳文の構文

	能動文		受身文			その他	合計
	主語あり	主語なし	被字句	意味上の受身文	語彙的受身文		
数	164	56	111	26	23	14	394
比率	41.6%	14.2%	28.2%	6.6%	5.8%	3.6%	100%

の他」の三つに分けた。さらに「能動文」は主語あり能動文と主語なし能動文に、「受身文」は「被字句」「意味上の受身文」「語彙的受身文」に分類した。

表3で最も多いのは能動文で二二〇例(55・8%)である。そのうち主語あり能動文が一六四例あり、全体の約四割を占めている。受身文は一六〇例(40・6%)あり、そのうち被字句は一一例で、全体の約三割である。

次に、訳文における日中同形語の使用状況を見ていく。日本語版『1984』に用いられた漢語サ変動詞の直接受身文には異なり語数で一九九語の日中同形語が用いられている。そのうち二一七語が中国語訳文にも用いられる。日中同形語が使用された中国語訳文の文数は二〇八例である。以下、例文で説明する。

- (4) a. 集金人は駆けつけた警官にその場で逮捕された。  
 b. 收款员被随后赶到现场的警察当场逮捕。
- (5) a. 一度レタスは冷凍されて解凍されたら、ぱりぱりとした食感を失ってしまう。  
 b. 生菜一旦冻过再解冻, 便会失去脆生生的口感。
- (6) a. そのようにして均衡が維持された。  
 b. 就这样, 平衡得到了维持。

(4a)の日中同形語「逮捕され」は、(4b)で「逮捕」と訳されている。日中同形語「逮捕(する)」は訳文にも使用されている。(5a)の日中

同形語は「冷凍され」と「解凍され」二つである。「解凍され」は(5b)で「解冻」と訳され、訳文にも使われているが、「冷凍され」は(5b)で「冻」と訳されており、訳文には使われていない。(6a)の日中同形語「維持され」は、(6b)で「维持」と訳されており、訳文にも使用されている。

前述した何(二〇一二)の調査資料は辞書であり、本稿で用いた小説『1984』とは資料の性質が異なっている。そこで、本稿の調査結果と何(二〇一二)の調査結果と比較する必要がある。

本稿の調査結果と何(二〇一二)とを漢語サ変動詞の受身文と中国語訳文との対応関係、訳文にも使用された日中同形語の異なり語数の割合、日中同形語が使用された訳文の文数の割合、の三つの面から比較する。

まず、漢語サ変動詞の受身文とその中国語訳文との対応関係について比較する。結果は表4の通りである。

表4を見ると、何(二〇一二)では受身文五〇九例のうち、およそ半数(49・5%)が中国語でも受身文で訳されている。能動文で訳されたものは約二割程度である。一方で、本稿の調査では受身文三九四例のうち、中国語受身文で訳されたものは約四割にとどまり、能動文で訳されたものが55・8%を占めている。

次に、日中同形語の使用について何(二〇一二)

表4: 中国語訳文に関する本調査と何(2012)の比較

	何(2012)		本稿	
	数	%	数	%
受身文	252	49.5	160	40.6
能動文	109	21.4	220	55.8

と本稿とを比較すると表5と表6の通りである。表5では、日本語文に用いられた日中同形語の異なり語数と中国語訳文にも用いられた日中同形語の異なり語数を示し、表6では、日本語受身文の文数と日中同形語が使用された中国語訳文の文数を示した。

表5を見ると、何(二〇一二)では三一〇語の日中同形語のうち、一三九語(44・8%)が訳文にも使用されている。本稿の調査結果では一九九語の日中同形語のうち、一一七語(58・7%)が訳文にも使用されている。表6を見ると、何(二〇一二)で五〇九例のうち、二二六例(44・6%)が日中同形語を使用している。本稿の調査で三九四例のうち、二〇八例(52・8%)が日中同形語を使用している。

表5と表6から見れば、何(二〇一二)で訳文にも使用された日中同形語の異なり語数の割合と、日中同形語が使用された訳文の文数の割合は45%程度であるが、本稿ではいずれも五割を超えている。

以上のように、『日中辞典』を資料とした何(二〇一二)と小説『1084』を資料とした本稿では、日本語の受身文とその中国語訳文との

表5：異なり語数に関する比較

	何(2012)	本稿
日中同形語の異なり語数	310	199
訳文にも使用された日中同形語の異なり語数	139 (44.8%)	117 (58.7%)

表6：訳文の文数に関する比較

	何(2012)	本稿
日本語受身文の文数	509	394
日中同形語が使用された訳文数	226 (44.4%)	208 (52.8%)

対応関係、中国語訳文における日中同形語の使用に違いが見られる。その要因としては、調査資料に文脈があるかどうかの違いが挙げられる。辞書には文脈がなく、辞書の用例は意味用法の説明にあたって作られたものである。小説における用例は物語の展開に応じて実作したものである。また、小説における漢語サ変動詞の受身文は中国語に訳すとき、中国語訳文でも文脈とのかかわりも考えなければならぬ。そのため、文脈があるかどうかにより、日本語受身文とその訳文との対応関係、中国語訳文における日中同形語の使用について、何(二〇一二)と本稿には上述の差異が生じたと考えられる。

#### 4・2 漢語サ変動詞の受身文と訳文の対応関係

本節では、漢語サ変動詞の受身文の主語と動作主の特徴に着目して、中国語訳文との対応関係を見ていく。

漢語サ変動詞の受身文は主語が有情物か無情物か、動作主が示されているか否かによって、「有情主語動作主あり」「有情主語動作主なし」「無情主語動作主あり」「無情主語動作主なし」の四つのタイプに分ける。中国語訳文は「能動文」「受身文」「その他」に分類する。日本語受身文とその中国語訳文の対応関係を示したのが、表7である。

表7で日本語受身文を見ると、数が最も多いのは「無情主語動作主なし」で二四四例であり、その次は「有情主語動作主なし」で九二例である。その二つタイプを合わせると三三六例で、全体の八割になる。そこで、「無情主語動作主なし」と「有情主語動作主なし」について、対応する中国語訳文を見ていくと、「無情主語動作主なし」と対応す

る中国語訳文は能動文が一七一例で、七割を占めている。「有情主語動作主なし」と対応する中国語訳文は受身文が六七例で、同じく七割を占めている。

「無情主語動作主なし」と対応する能動文一七一例のうち、主語あり能動文は一二二例（七割）で、主語なし能動文は四九例である。一方、「有情主語動作主なし」と対応する受身文六七例のうち、被字句は五九例（七割）、意味上の受身文は一例、語彙的受身文は七例である。

以下、「無情主語動作主なし」と対応する主語あり能動文と、「有情主語動作主なし」と対応する被字句について、例を挙げて説明していく。

まず、「無情主語動作主なし」と対応する主語あり能動文では一二二例のうち、日本語文の主語がそのまま訳文の主語になる文は一〇六例であり、主語が補われた文は一六例である。

以下、日本語文の主語がそのまま訳文の主語になる文に対して、例文で説

表7：各種類の日本語受身文と中国語の対応関係

日本語受身文 訳文の構文	有情主語 動作主あり	有情主語 動作主なし	無情主語 動作主あり	無情主語 動作主なし	合計
能動文	16	23	10	171	220
受身文	25	67	6	62	160
その他	1	2	0	11	14
合計	42	92	16	244	394

明していく。

(7) a. それにあわせて言語も作り変えられ、今ある言葉も意味が変更されていく。

b. 与之对应, 语言也要更改, 现有的语言, 意思也要改变。

(8) a. 一九四一年に独ソ戦が開始されるまで、この鉄道とシベリア鉄道を乗り継いで、

b. 一九四一年苏德战争爆发前, 经这条铁路转乘西伯利亚铁路, :

(9) a. それがいつ尽きるともなく反復される。

b. 这将永无休止地重复。

(7b) (8b) (9b) で主語はそれぞれ「意思(意味)」「苏德战争(独ソ戦)」「这(それ)」で、元の日本語文の主語と同じであり、いずれも無情物である。また、元の日本語文が表す意味も被害、好ましくないといったことを表すものではない。そのため、中国語では受身文にしくいと考えられる。

一方、(7b) (8b) (9b) で動詞「改变(変更する)」「爆发(開始する)」「重复(反復する)」は、自動詞であると認められる。そのため、(7b) (8b) (9b) は自動詞文で「無情主語動作主なし」と対応している。このような自動詞文は九一例(八割)である。

(10) a. 前に言ったように、我々の生きている世界にとってもつ

とも重要なのは、善と悪の割合が、バランスをとって維持されていることだ。

b. 我前面说过, 对我们生活的世界来说最重要的, 是善与恶的比例维持平衡。

(11) a. その焦点は牛河の目に固定されたままだ。

b. 焦点牢牢对准牛河的眼睛。

(12) a. 世界の仕組みはいつもどろりに維持された。

b. 世界的构造依然维持原样。

(10b) (11b) (12b) で主語はそれぞれ「善与恶的比例(善と悪の割合)」「焦点(焦点)」「世界的构造(世界の仕組み)」で、日本語文の無情主語と同じである。また、(10b) (11b) (12b) で動詞「維持(維持する)」「対准(固定する)」「維持(維持する)」の目的語はそれぞれ、「平衡(バランス)」「眼睛(目)」「原样(いつもどろり)」である。また、元の日本語文はいずれも主語が無情物で被害の意味がないため、中国語では受身文にならない。(10b) (11b) (12b) は他動詞能動文で「無情主語動作主なし」と対応している。このような他動詞能動文は十五例である。

以上見てきた通り、元の日本語受身文では主語が無情物で被害の意味がない場合、中国語では受身文にならず、主語あり能動文になる。その主語は、元の日本語文の主語と同じである。日本語文の主語がそのまま訳文の主語になる文では、ほとんどが自動詞文である。

次に、主語が補われた文を見ていく。主語が補われた文は一六例で、

そのうち「人们(人々)」「我们(私たち)」のような不特定の動作主が主語として補われたのが一四例(八割)であり、特定の動作主が主語として補われたのが二例である。以下、例を挙げて説明していく。

(13) a. 一番年老いた目の見えない山羊が冷えてなくなって死んでいるのが発見された。

b. 人们发现最老的一只眼睛看不见的山羊已经全身冰凉, 死了。

(14) a. 番号案内に電話をかけて、住所と田崎孝司という名前を告げたが、そのような名前では電話は登録されていないと言われた。

b. 打给查号台, 报上地址和田崎孝司这个名字, 却得知无人以此姓名登记过电话号码。

(15) a. 「そこは長時間にわたって人が身を隠すように設定されていない。」

b. “我们没有把那儿的安排为长期隐身之地。”

(13b) (14b) (15b) で主語「人们(みんな)」「无人(誰もいない)」「我们(我々)」は元の日本語文で現れていないものであり、それぞれ「发现(発見する)」「登记(登録する)」「安排(設定する)」の不特定の動作主である。

また、(13b) (14b) (15b) で動詞「发现(発見する)」「登记(登録する)」「安排(設定する)」の目的語はそれぞれ「山羊が死んでいること」「電



話番号」「身を隠すところ」で、元の日本語文の主語と対応している。元の日本語文では主語が無情物であり、事実を叙述するだけであるため、中国語では受身文にしにくいと考えられる。そのため、(13b) (14b) (15b) が「主語＋動詞＋目的語」という能動文の構成で「無情主語動作主なし」と対応している。

(16) a. もし耳に届いているとしても、それが理解されているかどうか知るべくもなかった。

b. 即便传入了耳中，父亲是否理解这些话也无从得知。

(17) a. 彼の歩行が中断されたとき、ポニーテイルはドアの脇で僅かに姿勢を変えた。

b. 他中断踱步时，马尾在门边微微改变一下姿势。

(16b) で「父亲(父)」は登場人物「川奈天吾」の父親を、(17) で「他(彼)」は登場人物「坊主頭」を指している。(16b) (17) で主語「父亲(父)」「他(彼)」はそれぞれ「理解(理解する)」「中断(中断する)」の動作主で、文脈により補われた特定のものである。

また、(16b) (17) で動詞「理解(理解する)」「中断(中断する)」の目的語はそれぞれ「这些话(それらの話)」「踱步(歩行)」、元の日本語文の無情主語と対応している。元の日本語文では主語が無情物で、被害を表していないため、中国語訳文では受身文にならない。(16b) (17b) は「主語＋動詞＋目的語」という能動文の構成で「無情主語動作主なし」と対応している。

以上見てきたとおり、日本語文では主語が無情物で、被害の意味がない場合、中国語では受身文にならず、主語あり能動文で対応する。元の日本語文で現れてない動作主が訳文で主語として補われたものもあり、そのうち、ほとんどが不特定の動作主である。また、主語が補われた文は「主語＋動詞＋目的語」という能動文で「無情主語動作主なし」と対応している。

これまでは「無情主語動作主なし」と対応する主語あり能動文をみた。日本語文の主語がそのまま訳文の主語になる文では、ほとんどが自動詞文である。主語が補われた文のほとんどが不特定の動作主を主語として補ったものである。主語が補われた文は「主語＋動詞＋目的語」という能動文の構成で「無情主語動作主なし」と対応している。

次に、「有情主語動作主なし」と対応する被字句をみていく。「有情主語動作主なし」九二例のうち、五九例が被字句に訳された。特に、「有情主語動作主なし」では有情主語が殺されたという意味を表す場合に、中国語訳文では例外なく被字句が使われている。このような文は一四例ある。

(18) a. 母親は彼が二歳になる前に長野県の温泉で絞殺された。

b. 母亲在他还不到两岁时，在长野县的温泉旅馆被人勒死。

(19) a. 彼女は渋谷のホテルの一室で、バスロープの紐で首を絞められ、殺害されていた。

b. 在涩谷的某宾馆的房间里，她被人用浴袍腰带勒住脖颈杀害。

(20) a. 最初の銃撃では、中国製のカラシニコフ自動小銃によって三人の警官が射殺され、二人が重軽傷を負った。

b. 在最初の枪战中，三名警察被中国制造的卡拉什尼科夫自动步枪射杀，两名身负轻重伤。

(18b) (19b) (20b) で主語はそれぞれ「母亲(母親)」「她(彼女)」「三名警察(三人の警官)」で、いずれも有情物である。(18a) (19a) (20a) で動詞「絞殺され」「殺害され」「射殺され」は(18b) (19b) (20b) でそれぞれ、「被勒死」「被杀害」「被射杀」と訳された。

劉他(一九九一・六四三)では、「被」構文は主語からみて不愉快或いは被害な事柄を表すのに用いられるのがほとんどである。」と述べている。そのため、(18b) (19b) (20b) で受動標識「被」字が使用された理由は、主語にとって命のなくなったことが最も大きな被害だからである。それは被字句の使い方と合致している。

## 5 まとめ

本稿は日本語小説『108』とその中国語訳本を資料として、漢語サ変動詞の受身文とその中国語の訳文を抽出し、(1) 日中同形語の漢語サ変動詞の受身文とその中国語訳文との対応関係、(2) 全ての漢語サ変動詞の受身文とその中国語訳文との対応関係を調査した。日中同形語の漢語サ変動詞の受身文について、何(二〇一二)との比較も行った。その結果、を以下にまとめた。

(1) 日中同形語の漢語サ変動詞の受身文については、次のことが

明らかとなった。日中同形語の漢語サ変動詞の受身文のうち55・8%が中国語訳文では能動文で訳されている。日中同形語一九九語(異なり)のうち58・7%が中国語訳文にも使用されている。中国語訳文のうち二〇八例(52・8%)で日中同形語が使用されている。以上の結果は、何(二〇一二)より高い割合となっている。この違いが生じたのは、用いた資料の性質の違いと考えられる。

(2) 全ての漢語サ変動詞の受身文とその中国語訳文との対応関係については、次のことが明らかとなった。日本語版『108』の漢語サ変動詞の受身文で最も多いのは「無情主語動作主なし」で、「有情主語動作主なし」がそれに次ぐ。前者は能動文で、後者は受身文で訳されている。「無情主語動作主なし」と対応する能動文は自動詞文で、元の日本語文の主語がそのまま中国語訳文の主語になることが多い。「有情主語動作主なし」と対応する受身文は被字句の受身文である。日本語文ではいづれも主語が殺されたことを表す文であり、命がなくなったという被害を受けていることを表しているため、中国語訳文で被字句の受身文で訳されたと考えられる。

本稿は、小説における日中同形語の使用状況、「無情主語動作主なし」と対応する主語あり能動文と、「有情主語動作主なし」と対応する被字句を考察した。今後はデータを増やし、資料のジャンルを広げて、漢語サ変動詞の受身文とその中国語訳文との対応関係を調査していく。

注

(1) 『北京大学コーパス』は、北京大学中国語言語学研究中心による開発されたコーパスで、現代中国語コーパスと古代中国語コーパスで構成されている。現代中国語コーパスは新聞資料が中心であり、他は話し言葉(北京方言)、文学作品、翻訳作品なども含まれている。その設計については、俞士汶・段慧明・朱学峰・孙斌(二〇〇二a)、俞士汶・段慧明・朱学峰・孙斌(二〇〇二b)を参照。

【参考文献】

- 飯嶋美知子(二〇〇七)「論説文の訳文から見た受動文の日中対照研究―中国語母語話者への教育の一環として―」、『早稲田大学日本語教育研究』一〇、一七〜三〇頁
- 大河内康憲(一九八三)「日・中語の被動表現」、『日本語学』四、明治書院、三一〜三八頁
- 何宝年(二〇一二)「中日同形語と受身文」、日中対照言語学会『日本語文と中国語のヴォイス』、白帝社、一二八〜一四六頁
- 高橋弥守彦(二〇一七)『中日対照言語学概論…その発想と表現』、日本僑胞社
- 中島悦子(二〇〇七)『日中対照研究 ヴォイス』、おうふう
- 梅佳(二〇一四)「日本語受身文とその中国語訳文の対照研究―「動作主なし」の直接受身文を中心に」、『比較社会文化』三五、九州大学比較社会文化学府、五三〜六〇頁
- 俞士汶・段慧明・朱学峰・孙斌(二〇〇二a)「北京大学現代汉语语料库基本加工规范」、『中文信息学报』一六(五)、四九〜六四頁
- 俞士汶・段慧明・朱学峰・孙斌(二〇〇二b)「北京大学現代汉语语料库基本加工规范(续)」、『中文信息学报』一六(六)、五八〜六四頁
- 楊凱栄(一九八九)「文法の対照研究―中国語と日本語―」、北原保雄編『講座日本語と日本語教育』五、明治書院、三二〇〜三三二頁
- 劉月華・潘文娒・故鞏・相原茂監訳、片山博美・守屋宏則・平井和之訳(一九九二)『現代中国語文法総覧(下)』、くろしお出版

【調査資料】

- 村上春樹(二〇〇九)『1Q84』BOOK1、BOOK2 新潮社
- 村上春樹(二〇一〇)『1Q84』BOOK3 新潮社

